
N a m e l e s s

G E H A

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Nameless

【Nコード】

N2080Q

【作者名】

GEHA

【あらすじ】

1986年、『フォトン』によって古い世界は壊れ、新しい「ヒト」が生まれた——世界が壊れたその日を、人類は名づけた。『ブレイク・ザ・ワールド』と。
そして25年後の日本、北海道で、名前の無い少年と、2人の青年が出会い、物語が始まった。
奇妙な運命の歯車が、今廻り始める。

ブローグ

「んあ…」

凄く久しぶりに…目を覚ました気がする。まるでずっと寝てたみたいだ。

部屋の向こうからヒトの声がする。声を聞く限り女の人みたいだけど、口調が荒っぱいから男の人かもしれない。

周りを見渡してみる。部屋はとても暗い。でも、パソコンのディスプレイみたいなものには電気が点いているから、そのおかげでなんとか部屋の中を見ることができる。

自分の体を見ている。多分長い間見ていなかった僕の体はすごく痩せていて、色はとても白い。そして…全身にチューブのようなものが繋がっている。

ディスプレイを見ると、心電図みたいなものが映っていて、その横で変なアルファベットみたいな文字が高速でスクロールしている。たぶんこのチューブと変な機材は、生命維持装置みたいなものなんだろう。

…一体なぜ、僕はこんなものをつけなきゃならないんだ？そもそも、今何年なんだ？ここは何処なんだ？

……駄目だ、何も思い出せない。覚えてるのはここが北海道だということと、あの22年前に起きた『ブレイク・ザ・ワールド』のことだけ――

そして一番肝心なこと…僕の名前が、思い出せない。

僕はなんと名乗っていた？　僕はなんと呼ばれていた？　思い出せない、僕の名前が。

いや、もともと名前なんてなかったのか？　誰からも名前を呼ばれなかったのか？

わからない。思い出せない。僕の過去も名前も、そして僕の過去の全部が。

一体…僕は一体…

「だれだ……」

ブログ（後書き）

はじめまして。GEHAと申します。

初めての上に文章力ないので拙い文になると思いますが、温かい目で見守ってもらえるとありがたいです。

中二病全開でいきますw

1話 『始』

「ユイ〜 起きてくださ〜イ、朝ですヨ〜」
バサッ！

俺の人生のなかで、パンツの次に大切な布、FUTON、すなわち布団が無情にも俺の唯一の同僚であり親友でもある男の手によって引っぱがされる。

「寒っ！ テメ、何すんだキムウ！」

そのキム——本名かどうかは未だにわからんが——はいつもと変わらないヘラヘラとしたニヤケ顔で、

「何っテ、起こしてるに決まってるじゃないです力。早く布団からでてくださいヨ」

「その布団はおまえにひつpegされたんじゃアー！！」

自慢じゃないが俺の趣味は食うことと寝ることである。欲望に忠実に生きるのが俺のモットーである。

キムの趣味は本を読むことと俺をいじめることである。俺を日常的に虐げるのが奴のモットーである。俺を日

だからこれも俺いじめの一環に違いない。そうに決まっている。

「冬の朝に半起き状態で布団にくるまるのは庶民の幸せTOP5に入る至福の行為！ 俺の日々の心労を癒すため、そしてなによりあの温もりのため！ 俺は10時までの二度寝を要求する！」

キムが呆れた顔でこっちを見てくる。やめろ！ めんどくさそうな目で俺を見るのはやめろ！

「仕事が終わったラ、幾らでも二度寝していいですヨ」

明らかに（はあ…朝っぱらからコイツうぜーよ）という顔をしているのはスルーしよう。それよりも俺はキムの発言が気になった。

「仕事？ こんな朝早くに？」

ちなみに枕もとの時計は午前5時4分。いつもだったら寝てい

る時間だ。というか今も寝たい。

話を戻そう。普通はこんな時間に依頼なんて来ない。こんな時間に訪ねてくるなんて余程時間間隔がおかしいか性悪な奴である。たとえばキムみたいな。たとえばキムみたいな。大事なことなので2回言った。

また話が脱線してしまった。まあ真面目に考えれば、こんな時間に来るなんてよっぽどワケありなんだろう。そしてワケありだということは……

「もしかして、報酬は……」

キムはとても嬉しそうに答えた。

「ええ、かなり、いいですよ」

自然と俺の顔もにやけてしまう。こういう時はなぜか気が合うな。俺たち。

「で、どのくらい？」

——後からつくづく思う。俺もキムもこの時なんでこんなウマイ話にホイホイ乗っかってしまったんだろう。このとき不審に思ってた断ってれば、もうちょい平和に暮らせたかもしれないって。

「10億。10億でス」

1話 『始』（後書き）

見返してみるとやっぱり文章ヘタクソですね… すいません
ここからちゃんとした話が始まる…はずです。

読んでくれた方ありがとうございました。 m (. .) m

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2080q/>

Nameless

2011年1月19日11時34分発行